

令和8年度

講評と対策

入学試験問題

四天王寺高等学校

国語

問題内容

- 一 「文学は予言する」
評論：鴻巣友季子（新潮選書）
- 二 「冬の鷹」
小説：吉村昭（新潮文庫）
- 三 「更級日記」
古文：菅原孝標女

配点

- 36点
- 43点
- 21点

出題の意図

- 文学作品を通じて自己との差を知ることで他者と出会い、多元共存へと開かれるという、翻訳者である筆者の主張を読み取る。
- 二人の人間の相容れない信念の相克を読み取る。
- 富士山の霊験について述べられた逸話の内容を読み取る。

各問題講評（正答率は各問末尾の括弧内に示した。）

【一】

- 問一 漢字の書き取り問題。語彙そのものはよく理解しており、完答が多かった。a「縛」の付点不備、c「嫌」の偏の不備が目立つ。(85%)
- 問二 「アテンション・エコミー」の定義に関する問題。2行後の「投稿内容のクオリティー＝価値が決まる。」から考える。(90%)
- 問三 「宙づり」という比喩を「不安定な状態」と捉えたうえで具体化する問題。「耐える」まで言っていない答案が多い。(35%)
- 問四 「魔の手」という比喩を「魔」のニュアンスを活かして具体化する問題。段落冒頭「SNSはそこにつけこんで」から「魔」の「人の恐怖につけこむ」という性質に行き着けば良かったが、大半はその直後の「生産性を～空費させ」のみに目が行き、安直に抜き出した答案が多かった。また、「恐怖」まで行き着いていても、何に對するものかまで書けているものは少なかった。(30%)
- 問五 文中にある対比を活かしてまとめたノートを完成させる問題。
(1) 最終行「それ」の指示内容を詩中にある「多様である」とことと捉えて、文中にある「多様性」を正解とする。(30%)
(2)～(5) 筆者が疑念を抱く2・3と、筆者が推奨する4・5が対になっていることを意識して抜き出す必要があるが、そもそも「エンバシー」と「シンパシー」の違いを読み取れていない答案が目立つ。対比の読み取りは読解の基本であるから、どの文章においてもこの対比の手法をよく意識して読まなければならない。(50%)
(6) 「自分から遠慮を感じるもの」を勧める筆者の意図を捉える問題。問三でも問うた「宙づりの時間」とも関連付けて考えるとよい。誤答としてはウが多かった。(80%)

【二】

- 問一 漢字の書き取り問題。文学作品に触れる機会が少なく、現代語とは言いながらも少し古い言い回し・語彙が身に付いていないのか、【一】の漢字問題と比較してだいぶ正答率が低い。特にbは15%と正答率が低いが、例年訓読みや用言部分の問題は内容が良くないのを、意識して勉強してほしい。(30%)
- 問二 (1) 傍線部の内容を具体化した部分を抜き出す問題。よくできていた。(80%)
(2) Xは概ねよくできていたが、他の問題と同様、答案に写す段階での写し違いや、「功績」の漢字ミスが起きている。(75%) Yは「名声を得る」系や「本に残す」系の誤答が多く見られた。「知らせる」伝える」系の正解に近い答案も多かったが、使われる状況が微妙に異なることを理解して使い分けられるようにしてほしい。(55%)
- 問三 直後の「白けた気分」から発言に込められた思いを読み取る問題。よくできていた。(80%)
- 問四 「憶測」の意味（十分な裏付けがないままに思い込みで結論を出すこと）を理解して、それが具体化された部分をさがす問題。シンプルな問題で、かつ抜き出し箇所も近いため、よくできていた。(90%)
- 問五 「辟易」の語意を問う問題。文脈から「気に入らない渾名を付けられて反発する」と捉えたウの誤答が多かったが、「辟」は「さける、しりこみする」の意で「避」に通じる。また「易」は「変化する、取り替える」で、「貿易」に通じる。「長話に辟易する」というように「嫌になる」意で用いられることが多いため、選択肢の「しりこみする」の意味が取れなかったと思われる。(30%)
- 問六 「大義名分」とは行動の正当性を担保する根拠のことで、転じて行動を正当化するための「口実・建前」としても用いられる。玄白は一見「医療のため」という正当な根拠を述べているかに見えるが、学者肌の良沢には、それが刊行を急ぐ「建前」として見えているのである。誤答として多かった「青雲の志」とは、立身出世を目指す（若者の）高い志を指し、ここでは文章が通じない。(30%)
- 問七 傍線部中には、学術の途を述べるのに商売語を用いる玄白を「俗物（名利に囚われたくだらぬ人物）」と判ずる良沢の思いが込められている。また、次段には玄白が「名声を得る手段」として翻訳事業を捉えていたと良沢が思っていることを述べる。以上を踏まえて「売名」と「学業」の関係を述べた正解箇所が最速と判断される。誤答としては「刊行を急ぐ」系の抜き出しが多かったが、それでは「学業→売名」ということについての良沢と玄白のスタンスの違いというテーマが読み取れているとは言えない。(40%)
- 問八 答案にアとイで悩んだ形跡の見た問題。確かに良沢は自分の信念を曲げず、ア「融通の利かない人物」とは言えるが、この選択肢は傍線部直後の段落に書かれた、良沢が「扱いにくい男」と判断した契機である「玄白は良沢の嘘に気付いていた」という内容を押さえていない。(65%)
- 問九 傍線部より5行後の「たしかに」と10行後の「しかし」の譲歩表現を捉え、「Aで

- ある。たしかにnot Aである。しかし（やはり）Aである。」という大意を掴めば、玄白については「世の医療の進歩をねがう」という内容が必須となるが、「not A」の部分の「名誉」を中心に据えてしまった答案や、「刊行の早さ」に終始してしまっている答案が多く見られた。一方の良沢の考えについては「完全な翻訳をねがっている」という文中表現からよく書けていた。(60%)
- 問十 表現に関する問題。目に見える情景から、目に見えない二人の精神のありようを読み取ったウが正解で、おおむねよくできていた。二人の主義主張の対立を読み取らせることが、この【二】全体の出題意図である。これらでの間でそれを様々な形で問うてきたが、文学的文章の醍醐味である象徴表現に目頃から意識を向けてもらいたい。(90%)

【三】

- 問一 語彙・文脈把握問題。ほとんど正しく読解できていた。(98%)
- 問二 (1) 内容把握問題。誤答として多かったのは「この国の守とありまなる」という、一人目の国守を指すことば。傍線部の内容は「国守予定の人物名の横（＝傍ら）に、さらに添えて別の名前が書かれてあった」ということ。(70%)
(2) 「三月のうちに亡くなり」から考える問題。よくできていた。(90%)
- 問三 「取り上げて、干して、をさめ」られるものとして「流れてきた紙」とは理解できたものの、「除目」という、正解の「反故」の様子を喻える表現を抜き出している誤答が多かった。紙はあくまでも「除目のごとく」だったのであり、「除目」そのものではない。現代語における「反故」の意味が分かっていたら正答できたと思われる。(75%)
- 問四 語彙・文脈把握問題。「帰る年」と漢字変換したのか、過去の話と勘違いで「昨年」を選んだ誤答が多かった。「還暦」と同様、「（暦がはじめに）返る」と捉え、また傍線部①直後の「来年」も参考にして、「霊峰富士の未来予想は外れなかった」という本文の趣旨を読み取ってれば正答できるはずである。(45%)
- 問五 問二(2)で「一人目の国守の死によって二人目の国守に交代した」という内容が読み取れていた割に、エの誤答が目立った。文中では傍線部①直後「来年なるべき国ども」と他国についても除目の予想は書かれており、それが「一つ違はす」目当たっていたと述べている。駿河国一国をまぐれで当てたのではなく、全てにおいて的中していたという富士の霊験を読み取るべき問題だったが、そこを読み飛ばして駿河国一国のみの記述だったと思い込んでしまったものか。(60%)
- 問六 本文全体の趣旨を捉える問題。ありがちな教訓を述べたものと早とちりして、ア「信仰の大切さ」という内容を選んではいならない。(70%)

次年度入試 アドバイス

四天王寺高校の入試問題では、例年長文を出題していますので、まずは時間内に読み切る訓練をしてください。演習の際は記述問題まできちんと書いて、これも時間内に解答する力をつけてください。長文問題は、多くの情報のなかから「具体例→筆者の主張」や「登場人物の心情や関係の変化」を掴み取る力を要求します。傍線部の近くだけを見てとりあえず解答するのではなく、傍線部のことばのニュアンスまで突き詰めて考え、設問で要求されていることは何か（心情を答えるのか、理由を答えるのか、性質を表す「～的」という語なのか、物の名を表す名詞なのか等）に注意して、設問をヒントに筆者の「言いたいこと（主張）」を読み取り、時間をはかって正確に練習を積むことをお勧めします。そして大事なことは語彙力です。文章を読むスピード（＝理解の早さ）は読書量（＝身についた語彙力）に関係します。漢字問題や語彙問題が解けている語彙力のある受験生は、概して他の読解問題も解けています。中学生の話し言葉では使わない抽象的な概念を表すことばを用いた文章も出題していますので、現代社会の問題について述べる新聞のコラムや、教科書で習った作家の他の作品を読むなどして、話し言葉以外の文章語や少し古い言い回しを自身の中に蓄積していきましょう。様々な種類の文章に親しみ、辞書を引きつけて語彙を豊かにしていってほしいと思います。古文では中学校の教科書で習わない古文の知識は出題していません。古文は現代文と地続きであるということ意識して学習して下さい。そして教科書に掲載されている古文を繰り返し音読することで、長い一文の中で主語の変更が起こる古文に慣れてください。音読は最も有効な古典学習法です。

数学

問題内容

配点
(100点中満点)

出題の意図

1. 計算問題	15点	基本事項(式の計算・連立方程式の解)の確認。
2. 小問集合	17点	基本事項(整数・データの分析)の確認。
3. 平面図形	18点	与えられた図の角度や長さから、線分の長さや三角形の面積を求める。
4. 2次関数	18点	2次関数のグラフから、直線の傾きや長さや三角形の面積を求める。
5. 確率	16点	3つのさいころを同時に投げたときに起こる確率を求める。
6. 立体図形	16点	直方体の辺上の点で作る平面の面積、立体の体積、点と平面の距離を求める。

各問題講評

全体として、約64%の出来具合でした。

- 各問おおむね70～80%の正答率でした。(1)はマイナスの抜けや指数の計算間違いがありました。(2)は先に文字の計算をしてから、代入するのがポイントとなります。(3)はまずx、yの値を正確に求めてa、bの連立方程式を解く問題となります。全体としては15点満点をとっている受験生も多かったので計算間違いなどがないように気を付けて全問正解して欲しいと思います。
- 各問おおむね75～80%の正答率でした。[1]は平方根の定義を正しく理解し、 $2025^{\frac{1}{2}}$ になることに気付き、問題の意味を満たすnを丁寧に求める問題でした。[2]はデータの活用の問題で、与えられた表から正しく数値を読み取り、相対度数からそれぞれの階級の度数、中央値や四分位数などの値を求めることができることが大切です。また、正しいものすべてを選択する問題では、選択肢の内容をよく読んで正しい選択ができるようにしましょう。
- 各問の正答率は(1)は約90%、(2)、(3)は約75%(4)は約15%でした。(1)、(2)、(3)までは△ABDが直角二等辺三角形であることに気付けば、容易に答が導き出せました。(4)は△ABDの面積と四角形ABECの面積が等しいこと、△ABCの面積が四角形ABECの半分であることを利用すれば答を導くことができました。平面図形の問題では、必要に応じて適切な補助線を引くことができるようにしましょう。
- 各問の正答率は(1)は95%以上、(2)は約85%、(3)は約50%、(4)は約45%でした。(1)はAの座標から容易に答が導き出せます。(2)、(3)は点Aからx軸に垂線AIを引くと、 $AI:OA:OI=1:2:\sqrt{3}$ であることから $\angle AOI=30^\circ$ とわかります。このことから、 $\angle BOH=60^\circ$ となり、 $OH:OB:BH=1:2:\sqrt{3}$ となることを利用して点Bの座標を求めましょう。(4)は線分ABを底辺と見て、等積変形の考え方を利用します。点Oを通り直線ABに平行な直線と、放物線との交点が点Cとなります。面積の問題では、等積変形の考え方を扱う問題がよく出題されるので、しっかり学習しておきましょう。
- 各問の正答率は(1)は80%以上、(2)はおおむね30～40%、(3)は約20%でした。確率の問題では、条件を正確に読み取り、丁寧に場合分けできるかどうか問われる問題でした。設定の理解が不十分な解答が多く見られ、最大値と最小値に注目する問題であるにもかかわらず、3つの目の関係を整理せずに計算を始めてしまったり、重複や数え漏れがあったりするような解答が目立ちました。(1)は、3つの目がすべて等しい場合を考える問題であり、設定を正しく読み取れていれば比較的取り組みやすい問題です。実際に起こりうる場合を書き出せば、確実に正解にたどり着くことができます。ここで確実に得点できたかどうか一つの分かれ目になりました。(2)、(3)では、「最大値と最小値の差」に注目する必要がある、単に出た目の差を1つずつ調べるのではなく、「最大値と最小値がどの組み合わせのときに条件を満たすか」という視点で整理することが重要です。特に(2)、(3)は場合分けがやや複雑になるため、体系的に整理できるかどうかで大きく差がつか

した。場合の数や確率の問題では、その都度設定が微妙に異なります。思い込みで解法を当てはめるのではなく、まず問題文を正確に読み取り、「何を数えるのか」を明確にすることが何よりも大切です。本問は、その基本姿勢が身につけているかどうかを測る問題でした。場合の数や確率に苦手意識を持つ受験生も多いので、正確に場面理解ができるようにしましょう。

- 各問の正答率は(1)は約85%、(2)は約40%、(3)はおおむね15～20%でした。(1)の△DIJの面積はDJとJIの長さを求めれば容易に計算できるため大変よくできていました。(2)の四面体KDIJの体積は、(1)で面積を求めた△DIJを底面とすると、高さが点Kと平面DIJとの距離になります。その距離が正方形ABCDの対角線の半分と等しいことを図の利用して考えると求めることができます。(3)は、点Kが平面EIJ上にあることから、(2)で考えた四面体を底面が△IJKとして考えると求めたい距離が高さとなります。立体図形においては、展開図を考えて解く問題や切断面などを考える問題も出題されることが多いので、色々なタイプの問題に取り組むようにしましょう。

次年度入試 アドバイス

例年、中学1年から3年までの全分野より偏りなく出題し、「正確な計算力を身につけているか、基礎事項を理解しているか、題意を読み取り論理的に考えていくことができるか。」などをみる問題を作成しています。正確な計算力と柔軟な思考力が試されるので、すばやく計算する練習とあきらめずじっくりと考える練習を2つの柱として準備してください。

三角形の合同、相似、面積、文章から連立方程式や2次方程式を立てて解く問題、立体図形、2次関数、場合の数と確率、円周角の定理、三平方の定理などは比較的よく出題されているので、特に力を入れて勉強しておきましょう。

ただし、難問を練習する必要はなく、標準問題を中心にどのような基本的事項が使われているのかを確かめながら勉強しておくことが最も有効な対策となります。その際、ケアレスミスにも注意しましょう。「部分は全体より小さい」「長さ・面積・体積は正の数」ということを意識し、「文字は正しいか」「符号は正しいか」「累乗は正しいか」「比の左右は合っているか」「最後まで因数分解できているか」「聞かれたことに答えたか」に気を付けましょう。

最後に、過去の問題を研究する際には、時間配分に十分注意し、配点はどの問題もほぼ均等なので、まず計算問題と各大問の(1)、(2)を確実に正解していきましょう。また、(2)の問題は(1)がヒントになったり、(3)の問題は(1)(2)がヒントになったりすることも多いので、前の問題の結果を使うことが出来ないか意識しながら考えてみてください。そして、入試当日を想定して時間を計って演習するようにしていきましょう。

英語

問題内容

配点

出題の意図

I 長文(物語)	25点	英文読解と内容把握力をみる
II 長文(エッセイ)	21点	英文読解と内容把握力をみる
III 会話文	24点	対話形式の文の読解力をみる
IV 英作文	12点	英文の構成力をみる
V 2文同意	6点	単語力と表現力をみる
VI 整序	9点	英文の構成力をみる
VII 語彙	3点	単語力と表現力をみる

各問題講評

- [I] サークスを逃げ出した象のミニーが、少年を火事から救い出すという物語。問1は動詞を適切な形にして補う問題であったが、定番の語の動詞変化が来ていなかった。問2は文中の空所に補うべき登場人物の台詞を補うものであり、比較的よく出来ていた。問3は現在完了時制を用いた空所補充であったが、正答率は高くなかった。問4並べかえの問題で、all the 名詞を the all 名詞の語順で書いてしまう誤答が目立った。問5は物語の流れをつかんでいれば解ける問題であり、よく出来ていた。問6は和訳の問題であったが、目的語となる名詞節がどこからどこまでかを取り違えたり、時制の訳し方を間違えたりする誤答が目立ち、正答率は低かった。問7は下線部の理由を時数制限内で答える問題。下線部直前の英文を訳し、まとめて解答しなければならぬが、全体的にはよく書けていた。問8は英問英答形式。そもそもの答えの内容が間違っているものも多く、また、内容があっても問われた形に応じた答え方ができていない生徒が目立った。疑問文の名詞を代名詞に変えていない答えも多く、基本的な答え方を身につける必要がある。大問1全体としては55%程度の出来であった。
- [II] 貨幣の歴史に関するエッセイ。問1は比較的よく出来ていた。イラストを参考に解答できたと思われる。問2はhardの「硬い」という意味を知らないと思わせる誤答が目立った。問3は和訳問題。②では不定詞の意味上の主語の構造を正確に把握できていない答案が散見された。また、centuryの意味を理解していない生徒も多く見られた。本文の内容から逸脱している解答もあり、正確に英文を読む力が求められる。③では第5文型をとっていない解答が多かった。時制間違い等も含め、細部まで注意して訳すことを心掛けてほしい。問4はalmost anythingの語順が難しいようであった。問5、問6はまずまずの出来。全体としては65%の出来であった。
- [III] 様々な場面での会話表現を問う問題。非常によく出来ていて約90%の出来であった。
- [IV] 状況を与えられた中での自由英作文。①、②に関してはto不定詞の後に動詞を持ってくることができない、また、単複の違い、目的語などの必要な要素がないなど、全体的に文法力不足が感じられた。④は自分の考えを述べる問題であるが、未来のことについて言及しなければならないのに、未来時制になっていない答えが多かった。また、答えとして要求されている「AIを使ってできること」について、述べていない英文が見られた。全体としては70%程度の出来であった。
- [V] 2文が同意になるように空所を補充する問題。necessaryと形容詞を補うべきところを、動詞のneedを書く生徒が多かった。三単現のsのつけ忘れも目立った。いわゆる定番の問題なので、きっちりと定着するよう勉強することが望まれる。40%程度の出来であった。
- [VI] 整序問題。remember to do がdoingになっている答えがたくさん見られた。その他、基本的な文法事項が身につけていない誤答が多かった。正答率は50%程度。
- [VII] 異綴同音意義語問題。65%程度の正答率であった。

次年度入試 アドバイス

長文問題ではボリュームがあるものを限られた時間で把握する力が要求されます。日頃から、同じレベルで様々な分野の英文に触れるように心がけましょう。また、国語力も必要となりますので、日本語での読書もお奨めします。文法・語法問題では基本的なものが出題されることが多いので、中学1～3年の教科書で学習する文法を繰り返し復習しましょう。また、教科書を何度も音読し、発音、単語の意味を正確に覚え、正しい綴りもできるようにしましょう。過去の問題も解いておくとい良いでしょう。

理科

問題内容

配点

出題の意図

1 地震と気象現象	25点	緊急地震速報や熱中症警戒アラートを題材に、地震と気象現象に関する基本的な知識、与えられたデータや情報を正しく読み取り考察する力を問うた。
2 電気分解	25点	電気分解に関する知識や理解、気体の性質とその利用に関する知識、自らの知識をもとに文章から必要な情報を得て考え判断する力を問うた。
3 植物のはたらき	25点	光合成と呼吸のはたらきについての基本的な知識、条件を変えると植物体内で物質の合成・消費・移動量がどのように変化するかを比較する思考力を問うた。
4 回路の種類と発熱量	12点	熱量計を用いた実験を通して、中学理科 I 分野の電流と発熱の単元で学習する内容を幅広く問うた。知識にとどまることなく、原理や法則を活用して思考する力を問うた。
5 光や音による現象	13点	光や音の速さ、救急車のサイレンの高さの変化など、日常でよく見られる現象を、物理学的観点から考察し、さらに、文章から正しく状況を読み解く力を問うた。

各問題講評

- 全体的によく出来ていたが、表の読み取りや計算が必要となる問いでは正答率がやや下がった。特に、湿度と熱中症の関係を記述する設問において、問われていることに対して論理的に答えることができていない解答が目立った。物事の因果関係を、論理を飛躍させずに説明できる力をつけてほしい。
- 全体的によく出来ていたが、化学反応式や計算では苦戦していた。水の電気分解は、「水酸化ナトリウム水溶液」に電流を流して起こる反応である。実験で使用する物質や操作について学んでほしい。計算では、単位にも留意して計算するようにしたい。問題をよく読み、解答に必要なヒントに気付いてほしい。
- 全体的に正答率の低い大問となった。基本的な知識を問う空欄補充では、前後の文章をしっかりと読まず、文中に出てくる単語から条件反射のように答えている誤答が目立った。(例えば、「光合成・表皮細胞」といえば、「気孔」と誤る。)後半の問いでは、実験条件ごとに物質の移動量の違いを考える際、対比して整理することができていなかったようだ。
- 語句を答える問題や知識を問う問題については正答率が高かったが、その他の問題については正答率が特に低かった。「オームの法則」や、「電力とジュール熱の関係」といった用語や原理原則は知っているが、与えられた回路図の中でスイッチを切り替えたときに、どのようなことが起こるかを理解できていない解答が目立った。
- 全体的によくできていたが、後半の計算問題については正答率がやや下がった。問題文に書かれてある情報を正しく読み取り、誘導に則って落ち着いて計算ができていれば十分満点が可能であったと思われる。

次年度入試 アドバイス

以下に理科の対策を列举しておくので、しっかり準備してください。

- ☆ 中学の理科で学ぶ重要な「用語」、「単位」などを正確に理解する。特に「用語」は漢字で答えることを指定される場合が多い。記述では用語を的確に用い、誤字脱字に注意する。
- ☆ 実験や観察に関する問いが多いので、教科書で扱われている実験については、実験操作の意味を理解し、データの処理、グラフの作成や読み取り、計算については正確性とスピードを必要とする。
- ☆ 化学式や化学反応式は正確にかけるよう、考察する問題では、必ずそのヒントが問題中に含まれているので問題文をしっかりと読み取るトレーニングを積み重ねる。
- ☆ 実験や観察には積極的に参加し、生活の中で体験する身近な現象などに、日頃から関心をもつよう心がけることも大切である。

社会

問題内容

配点

出題の意図

1 地理分野	20点	SDG sをテーマにして、世界の自然や文化など、さまざまな項目を出題した。
2 地理分野	10点	日本の各地域のようすを理解できているかを、自然や産業に関連したテーマで出題した。
3 歴史分野(日本史分野)	20点	「大阪の歴史」をテーマにして、古代から現代までの、政治・外交・文化・史料などについて総合的に出題した。
4 歴史分野(世界史分野通史)	20点	時代を俯瞰する観点で、経済、法、生活に関する史実について出題した。
5 公民分野(現代社会、政治)	10点	現代社会や政治・経済の特徴について出題した。
6 公民分野(時事問題)	20点	2025年の出来事に関する時事に関して出題した。

各問題講評(具体的に)

- 1 全体的に正答率が高かったが、問2では排出量の上位を日本とする誤答が目立った。問5・7などの筆答問題は正答率が高く、教科書の用語をしっかりと学習した受験生が多いように感じた。
- 2 正誤の組み合わせを問う問題で、(ア)(イ)(エ)で正答率がやや低くなった。(ア)では、1または4の誤答が多かった。山脈・山地の連なりや大陸棚の範囲などは教科書で説明されているものであるが、これらを地図でも確認する学習を心がけてほしい。
- 3 出題形式としては、「年代整序」・「正誤判定」・「史料問題」などであった。特に「年代整序」は正答率が低かった。
- 4 主に中世から近現代について偏りなく出題した。問2、問8の正答率がやや低かった。歴史上の人物に関連する事柄、同時代の日本の歴史や世界の歴史の背景、また、第一次世界大戦から第二次世界大戦期の正確な経緯が整理できていないように思われる。
- 5 問4と問5の正答率が低かった。経済的分野についてもしっかりと学習してもらいたい。
- 6 問7の正答率が低かった。漢字で答える問題については、例年、正答率が低い傾向である。

次年度入試 アドバイス

1・2【地理分野】

世界地理・日本地理ともに、気候や文化といった分野ごとに、各地の特色をまとめるような勉強をしてください。資料やデータについては、数値や順位の暗記ではなく、偏りかたなどの違いに気づくようにしてください。地名が出てきたときは、地図帳を使ったりノートに手描きの地図を描いたりして、おおまかな場所を把握できるようになってください。その上で、地域の特色をまとめたり、その特色を作り出した背景を考えたりして、勉強をしていきましょう。

3【歴史分野 日本史】

まずは教科書を本文だけでなく、史料や年表なども含めてしっかりと読み込んで、内容理解をすることが基本となります。その上で、時代の流れを大きな視野で理解するように努めてください。特に年代整序問題に正答するためには必要になってきます。さらに、歴史を政治面・外交面・社会経済面・文化面から多面的に捉えるように心がけて下さい。また、過去問にも必ず取り組んでください。

4【歴史分野 世界史】

- ① 教科書をしっかりと熟読し、時代(年代)と地域(国)の特徴を把握・理解することに努めましょう。
- ② 教科書や副教材に掲載されている図版や写真・史料・グラフには必ず目を通しましょう。
- ③ ①、②を念頭にしっかりと学習し、おおよその歴史の流れを直線的のみならず、広い視野で全体を把握するように努めましょう。歴史学習は、コツコツ積み重ねていくことが肝心です。特に各時代における世相とそれに関係する事から(日本の歴史も世界の歴史に含まれます)の正確な知識を習得しましょう。

5・6【公民分野】

現代社会についての分野、政治的分野、経済的分野も教科書の本文だけでなく、注釈・欄外・表・グラフ等も含めてしっかりと学習しておいて下さい。時事問題に関しては普段からテレビのニュースや新聞などに関心を持って、学習を深めて欲しい。その際、日本と世界の両方の出来事に関心を持って欲しい。

全般

地理分野・歴史分野・公民分野を全体的にバランス良く学習することが求められる。普段から教科書だけではなく、地図帳・資料集・新聞なども活用して、幅広い知識を身につけるような学習をして欲しい。